

第2回留萌教育局管内特別支援連携協議会の概要

令和5年（2023年）2月17日（金）に実施した本協議会では、事務局から今年度の取組を報告するとともに、名寄市立大学 奥村講師が第2回専門家チーム会議の報告を行いました。また、北海道小平高等養護学校 源校長が本校の取組について発表し、今年度の重点に係る取組状況の成果と次年度の展望等について協議を行いました。



【会議の様子】

①説明 【留萌管内の今年度の実施状況と次年度への課題】

- 特別な教育的支援が必要な児童生徒の教科指導、保護者への説明、関係機関等との連携に係る研修等を推進し専門性の一層の向上を図っていく必要がある。
- 個別の指導計画及び教育支援計画のさらなる活用の促進、通常の学級に在籍している特別な教育的支援が必要と判断される幼児・児童生徒の教育支援計画について、保護者に丁寧な説明を図る必要がある。

②発表 【今年度の北海道小平高等養護学校の取組 源 一広校長】

管内唯一の特別支援学校として特別支援教育のセンター的機能を発揮している小平高等養護学校の今年度の取組のうち次の4点について発表頂きました。

<p>1 専門家チームによる巡回相談 個別検査等を通して、各学校の現場で子どもの実態を把握し指導に生かすことができるよう実施している。</p>	<p>2 パートナー・ティーチャー 今年度は200件程度行い、リモート等を利用した取組も進めており、好事例を蓄積し今後に生かしていきたい。</p>
<p>3 トライ・プロジェクト 今年度からNPO法人ウェルアナザーデザインと共同の取組を始めた。SC・SSWの方と同行し多角的に子どもの状況を見取り助言することにより、先生方の指導力向上等に繋がっていると考えている。既に来年の予約も一杯になるなど大変好評を頂いている。</p>	<p>4 ギフテッドセミナー 昨年度から実施しているオンラインセミナーで、管内の先生方には各回60～70名程度の参加をいただいた。特別支援の専門性向上、指導力向上を図る上で“ともに”“簡単に”学ぶ環境が構築できていると考える。</p>

③協議 【今年度の重点の取組状況について】

<p>重点① 全ての関係者による専門性の一層の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> • 全教職員を対象とした特別な支援を要する生徒に対する日常の支援の在り方等に関する研修や、公開授業の実施 • 小平高等養護学校が主催するギフテッドセミナーの積極的な参加 • 専門的な視点からの授業参観及び協議による教員の教科指導、生徒指導等の資質能力の向上を目的としたパートナー・ティーチャー制度の活用 	<p>重点② 幼児期からの指導や支援のつながりが切れない体制づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> • 学校内外での情報共有及び保護者との懇談等における資料として個別の支援計画「つながり留」の活用 • 療育相談会、市民セミナー等を通じた特別支援教育や障がいに対する地域住民等の理解促進に向けた取組 • 小平町を指定地域とした「障がい児等支援連携体制整備事業」の推進 • 専門家による保護者等を対象とした心の健康相談や母子保健に係る担当者の資質能力の向上に向けた研修
--	--

④まとめ 【名寄市立大学社会保健福祉学科 奥村 香澄講師】

重点① 持続可能な形での研修を行うとともに、各機関の研修や取組で出会った関係者同士が今後もつながれるようにすることが重要である。

重点② 幼児期から就労後を踏まえた教育支援計画、移行・支援計画の充実を図る必要がある。また、同じ形式を用いた教育支援計画は関係者が連携するためのツールとして効果的である。

地域資源の活用

留萌管内において各機関が専門的な立場で様々な取組を行っていることから、それらの機会を積極的に活用し、各所属がつながり、取組を進めることが有効である。

★第2回専門家チーム会議（令和5年2月17日実施）★

今年度の巡回相談の実施状況を交流した後、主に①保護者対応②特別支援教育に係る人材育成について協議を行いました。

①については、高等養護学校や保健所等の地域資源に着目し、模擬保護者面談などの研修を通じてノウハウを蓄積する必要性について協議しました。また、②については、多くの先生方が専門家チーム委員を経験することによる学びの効果や、専門家チーム委員等の検査体験など専門性の向上に向けた取組について意見交換されました。

次年度に向けて本会議での協議を踏まえ、巡回相談のより一層の充実を図っていく予定です。